

船舶事故調査報告書

平成29年2月23日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成28年7月31日 20時15分ごろ
発生場所	愛媛県伊予市郡中港 郡中港西防波堤灯台から真方位003° 200m付近 (概位 北緯33° 45.7′ 東経132° 41.6′)
事故の概要	漁船常清丸は、南進中、また、プレジャーボート昌和は、漂流中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成28年8月8日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 常清丸、4.9トン EH3-23288（漁船登録番号）、個人所有 B プレジャーボート 昌和、5トン未満（長さ11.39m） 281-37021愛媛、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型 B 船長B、一級小型・特殊・特定
負傷者等	なし
損傷	A 船首部左舷側ハンドレールに擦過傷 B 後部マストの折損等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 高潮期
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、友人2人を乗せ、手動操舵により南進していた。 船長Aは、船首方で打ち上げられている花火を見ながら航行を続けたところ、B船に衝突した。 A船には、レーダーがなかった。 B船は、船長Bが1人で乗り組み、船長Bの家族1人を乗せ、花火大会の警戒船として船首を東南東方に向けて漂流していた。 船長Bは、左舷船尾方から接近するA船を視認したが、0.75海里レンジに設定したレーダー画面にA船が映っていなかったため、まだ距離があると思い、船首方の岸壁上で花火を観覧する人たちが海中転落しないように警戒していた。
分析	A船は、船長Aが、打ち上げられている花火を見ていて見張りを適切に行っていなかったことから、前路で漂流中のB船に気付かなかったものと考えられる。 B船は、船長Bが、岸壁上で花火を観覧する人たちの警戒に意識を向け、B船に向けて接近するA船を失念したことから、漂流を続けた

	ものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、船長 A が見張りを適切に行わず、また、船長 B が B 船に向けて接近する A 船を失念したため、両船が衝突したものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時適切な見張りを行うこと。